

美幌総合計画策定

第4回

『びほろ』みらいまちづくり会議

2025年12月18日

1. 前回の振り返り

(1) 第3回 『びほろ』みらいまちづくり会議

開催日時:2025年11月26日(水)18時30分～20時

場所:保健福祉総合センター しゃきっとプラザ

第3回 『びほろ』みらいまちづくり会議では、第2回の会議で出された課題を踏まえつつ、「①10年後の美幌町で見られるまちのシーン」を議論し、そこから「②10年後の美幌町の将来イメージ」について意見交換を行いました。

10年後のまちのシーンも将来イメージもでは、ひとが集うことでまちを活性化していくイメージが出されていたほか、「にぎわい」に関する意見が多く出されていました。また、観光による活性化、農業を核にした産業の活性化、子育て、コミュニティ、多世代交流などの意見が多く出された。



まちづくり会議で出されたまとめ

- 出された意見から将来イメージを整理すると下記の通りとなります

①「にぎわい」が創出されているまち

まちの中心市街地活性化が、5つの部会(グループ)で共通に出された

- 商店街・中心市街地のにぎわい創出
- 多世代が集まる場、にぎやかなイベント
- 図書館・広場・道の駅など“集まる場所”の必要性

②観光・交流により活性化しているまち

観光は「産業振興」だけでなく「交流」、「にぎわい」、「まちの誇り」にもつながるというイメージで出されている

- KCT(屈斜路カルデラトレイル)を活かした観光振興
- 美幌峠、キャンプ、体験観光での観光振興
- ハイカーと住民の自然な交流
- 観光客がまちなかに流れて滞在する
- 観光 × 教育、観光 × 農業の融合

③子育て・教育の充実したまち

子育て・教育が、「移住促進」や「まちの活性化」につながるというイメージが出されている。

- 子どもの声が聞こえるまち
- 小中一貫・体験型教育
- 子育て世代の移住増加
- 子どもセンターや施設の充実

④多世代交流とコミュニティが活性化しているまち

「人とつながる暮らし」のイメージが出されている

- 高齢者も若者も集まる空間
- 自治会のつながり、助け合い
- 福祉的なつどいの場、みんなの食堂

⑤農業の強みを活かし産業が活性化しているまち

農業を“核”とした地域ブランドの形成をイメージしている

- 6次産業化、加工食品
- 農業と商業・飲食との連携
- 地産地消、安定した農業経営
- ファーマーズレストランなど

⑥豊かに安心して暮らせるまち

「便利」「安全」「景観」が感じられ安心して豊かな暮らしができるイメージが出されている

- コンパクトシティ化
- 車がなくても暮らせるまち
- 災害に強いまち
- 道路・交通整備
- 景観の向上

2. 中間まとめ

『びほろ』みらいまちづくり会議からの
中間まとめ

(1) 10年間の取り巻く社会変化についての主な意見

※主に第2回目のまちづくり会議から

分類	主な内容	傾向・キーワード
人口減少地域構造	人口減少、少子高齢化、子どもの減少、1世帯人数減	人口減少、高齢化、若者流出(全グループから出されている)
商業／地域経済	商店街の衰退、飲食店減少、空き店舗・空き家増加	中心部の空洞化、夜間のにぎわい減少、空き家・空き店舗の増加
交通インフラ	JR無人化、バス路線減少、移動手段の減少	交通利便性(足)の確保、空港アクセスの確保(複数部会から出されている)
教育・学校	美幌高校の生徒減少、部活動縮小	子どもの減少、進学・就職で町外流出
医療・福祉	病院減少、医師不足、診療科の限定	医療アクセスへの不安、福祉職員の確保の必要性
社会環境・生活	物価高騰、ICT普及、働き方変化	スマホの普及、テレワークの増加、個人化など
地域コミュニティ	自治会減少、イベント減少、人のつながり希薄化	交流の減少、担い手不足とマンネリ化、自治会の固定化
外国人住民	外国人の増加	外国人が増えたが地域に溶け込めていない

(2) 美幌町のまちづくりの課題の主な意見

分野	主な課題	関連キーワード・意見
人口減少／定住	人口減少対応、若者定着、Uターン促進	若者の働く場、住宅支援、子育て環境の充実
雇用促進 産業振興	働く場の確保、賃金水準の向上 起業支援	地元就職、農業・一次産業の後継者の確保、若者の起業支援
子育て・教育	乳幼児～高校まで切れ目ない支援、教育の柔軟化	子育て支援、学習環境の充実、部活動支援、発達支援
医療・福祉	医師・介護人材不足、高齢者支援充実	福祉のサービス格差 高齢化に対応したまち
交通・インフラ	公共交通の維持、モビリティの活用、インフラの老朽化対応	「モービー」の活用、バス路線の確保 下水道老朽化への対応
商業・中心市街地	シャッター街対策、施設の再生	空き店舗活用、コワーキングスペースのまちなかへの設置、KITENの連携
環境・エネルギー	気候変動対応、再エネ活用推進、ゴミ処理施設の活用	温暖化対策の推進、ごみの排熱利用 再生エネの導入」
観光・交流	美幌峠以外の観光資源づくり、滞在促進	まちなかの道の駅配置、観光ガイド育成、宿泊施設の充実
地域コミュニティ	担い手不足、若者参加、助け合い	まちづくり会議の常設、助け合いの仕組みづくり、ウェルビーイングの推進
行政・財政	行政の方針がわからない、人口減少のなか財政が不安	投資する力の低下

(3) 6つの部会ごとの中間まとめ(社会課題と将来イメージ)

①総務部会

社会課題

- 車依存の生活
- 中心市街地の衰退に伴う生活利便性・にぎわいの低下
- 空き家の増加にともなう、管理不全や治安、景観悪化
- 行政サービスの多様化
- ICTやDXの推進
- 住民参加や情報共有の仕組みづくり
- 災害に備えた地域防災力の向上が必要

将来イメージ

- 「コンパクトシティ化」により生活が便利で安全
(徒歩・公共交通で移動可)
- 空き家対策が進み、住環境が整備されている
- 災害に強く、安心して暮らせるまち
- 行政と住民の協働が進み、「支え合いが仕組みとして存在」
- 子育て環境も充実し、若者を含めた移住定住が増える
- 計画的なまちづくりが実現



②町民生活部会

社会課題

- 人口減少により多世代交流の場や機会が不足し、地域コミュニティの希薄化が進む
- 自治会活動の担い手不足、住民参加の低下
- 高齢者や子育て世代が気軽につながる「場」や仕組みが必要
- 高齢化に伴い一人暮らし高齢者の増加に対し支え合う体制が必要

将来イメージ

- 「年代問わず挨拶ができ、つながれるまち」
- 高齢者・若者・移住者が自然に交流できる場がある
- 助け合い・支え合いの仕組みが地域に根づいている
(みんなの食堂、つどいの場など)
- コミュニティの場や機会があり、「話し合えるまち」
「多様性を尊重し合うまち」になっている(共創のまち)
- まちづくりに関わるひとが育ち、増え、
住民主体のまちづくりのプロジェクトが生まれる



③福祉部会

社会課題

- 子育て支援施設・居場所が少ない
- 子どもの遊び場や安全な環境が必要
- 高齢者の孤立、健康づくりの機会が少ない
- 医療の人材不足、介護の担い手確保が難しくなる
- 子育て世代の流出
- 子育ての取り組みと移住定住促進との連動が弱い

将来イメージ

- 子育てしやすく、安心して遊べる環境が整ったまち
- 子どもの声が聞こえ、子どもがたくさんいるまち
- 小中一貫・体験型教育と連携した子育て支援がある
- 高齢者が元気につながる機会が豊富
(ふれあい・健康づくり・地域の助け合い)
- 地域で子育てができるコミュニティが進んでいる
- 支援が行き届く、誰もが安心して暮らせる体制がある



④経済部会

社会課題

- 中心市街地・商店街の衰退
- 買い物環境の維持が課題
- 若者の町外流出、まちに魅力的な働く場が不足
- 農業の担い手不足、加工・販売機能の弱さ
- 観光客がまちなかに滞在せず、交流が生まれていない
- 空港や観光資源などの地域資源の活用が不足

将来イメージ

- 複合的な拠点もあり、中心市街地ににぎわいが戻る
(商店街を人が歩く、イベントが盛ん、明るい飲食店街)
- 農業を核とした美幌ブランドの形成
(6次産業化、加工品、ファーマーズレストラン)
- 農業 × 観光、観光 × 教育など産業の融合が進む
- 美幌峠・キャンプ・KCTを活かした滞在型観光が定着
- 若者が将来設計できる魅力的な企業・雇用の創出
(農業DX、最先端技術者が集まる環境)
- 観光と移住者が増え、交流人口が活性化



⑤建設部会

社会課題

- 景観の維持・向上が十分でない(まちなみの統一感不足)
- 自然環境の保全活動の担い手不足
- 道路・公共交通・歩行空間などのインフラの老朽化
- 気候変動の対応や再生可能エネルギーの導入促進
- 空き家・未利用地の管理が景観悪化につながる

将来イメージ

- 「コンパクトシティ化」により生活が便利で安全(徒歩・公共交通で移動可)
- 空き家対策が進み、住環境が整備されている
- 中心市街地の新たな複合施設の配置
- 美幌の景観・自然環境が保全・活かされているまち
- 美幌峠だけでなく、まち全体の景観が整っていて誇りを持てる
- 次世代につなぐ自然環境が保全されている
- 車がなくても暮らせるインフラ整備(公共交通・歩行空間)
- 道路・公共施設が安全で快適に維持管理されている



⑥教育部会

社会課題

- 子どもの地域体験や学びの場が不足
- 美幌高校の存続が不透明で、若者の流出につながる懸念
- 文化活動や多世代参加の機会が限定的
- 生涯学習拠点の魅力・機能不足

将来イメージ

- 美幌高校の存続と教育環境の充実
- 小中一貫教育、まちぐるみでの体験型教育で豊かな学びがある
- 「子どもの声があふれる」教育のまち
- 文化活動・イベントが活発で、まちににぎわいが生まれる
- 生涯学習・文化を通じた多世代交流が広がる
- 観光 × 教育など、地域資源を学びに活かす特色ある教育



ワークショップ

今日のワークショップ

部会ごとのテーマになりそうな大切なキーワードとそれを表す「漢字1文字」を考えます

例えば..

総務部会: 安心安全、豊かな暮らし、選ばれるびほろ

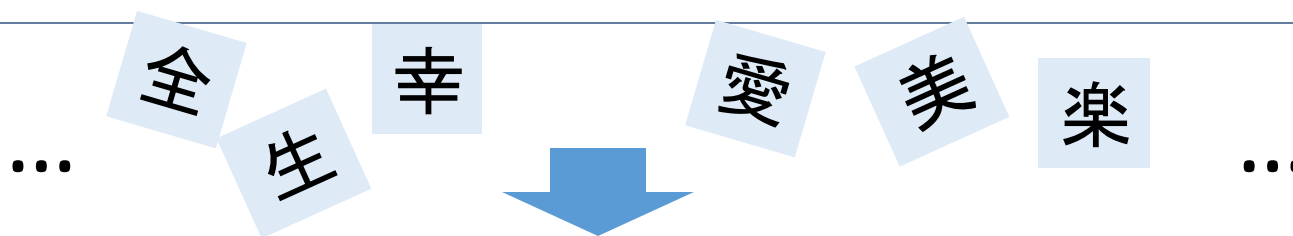
町民生活部会: つながり、交流、多世代、地域コミュニティ

福祉部会: 子育てにやさしい、高齢者にもやさしい、元気、支え合う

経済部会: 農業を核にした、地域ブランド、観光交流、にぎわい

建設部会: 豊かな暮らしを支える、美しい景観、歩いて暮らせる

教育部会: 美幌の未来の人材育成、文化活動、まちぐるみの教育



部会ごとに目指したいまちづくりを象徴する漢字1文字を決めます！

漢字1文字を決めるときに大切なこと...

「12年後の美幌町がこうなっていたらわくわくする」
「楽しみだな」と思える漢字を選んでください。



進化



深化

ワークシートの例

総務部会

【大切だと思うキーワード】



多世代が
安心できる

安心安全

安心して暮ら
せるまち



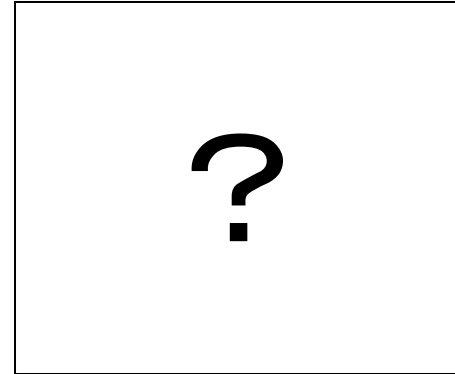
【キーワードから連想される漢字1文字】

全

幸

生

まちづくりを象徴する
漢字1文字



【この漢字に込めた思い】

- ~~~な意味があるから
- 「〇〇」「〇〇」という単語に使われているから

グループでの話し合いのルール

- ① 発言は1回、3分まで
長い話は印象に残りません
- ② 人の意見・アイデアを否定しないようにしましょう
- ③ 今日はたくさんの方のアイデアを出すことが目的です

グループ発表

主な意見を紹介してください

- 大切だと思うキーワードとして出された意見、そのキーワードから連想される漢字として出されたもの
- 部会ごとのまちづくりを象徴する漢字 1 文字とその漢字に込めた思い